

学校だより(ねあがい)

平成29年11月29日発行 校長 石田 恵一

素晴らしい学校に赴任したということがわかりました

いよいよ2学期も終わりに近づいてきました。中学校においては、2学期は、運動会・文化祭と大きな学校行事が行われた学期です。本校の運動会・文化祭を経験しましたが、心から素晴らしいと感じました。子ども達が、苦しくても心を合わせて目標に向かい全力で行事に取り組み、やり終えた後に大きな達成感や感動を積み上げていく。その過程で人として大切なことを学んでいく。そして、子ども達の活動を先生達が全力で応援し、支え導いていく。まさしく教育の原点がここにあると思います。素晴らしい学校に赴任したということを実感した2学期でした。

学校行事から何を学ぶのか

学校行事をとおして、子ども達は、高い目標に向かって努力すること、仲間と心を合わせて協力してやり遂げることなど、人として大切なことを学んでいきます。勉強も、スポーツも、運動会などの学校行事もみんなそうですが、一生懸命頑張るから大変で、手加減したりあきらめれば楽かもしれません。でも、高い目標に向かい、みんなで心を合わせて、大きな努力を積み重ねてやり遂げた後に待っている、あの感動、あの達成感、やり遂げた人にしか分からない、苦しんだ人にしか分からない素晴らしい世界だと、いつも子ども達に話しています。全ての子ども達が、勉強や学校行事、部活動などの学校生活で大きな感動や達成感を積み重ねて、根上中学校でよかったと胸を張って卒業してほしいと願っています。

子ども達の感想から2学期を振り返る

学校行事を終えた後の子ども達の感想を読むのが好きです。そこには、子ども達の深い想いや学び、喜びや苦しみなどがぎゅぎゅ詰まっています。読んでいて涙が出ることもあります。全校集会で紹介した子ども達の感想を掲載します。

【運動会編】

子ども達が最も燃える行事です。もちろん運動の得意な子どもばかりではありません。でも、運動の苦手な子どもやクラスのために一生懸命になるその姿に感動しました。どの学年の感想も深い想いを感じましたが、あえて1年生3人の学びを紹介します。

「3年生のようにになりたい」

この運動会は一生心に残る思い出になると思います。3年生が今まで必死に頑張ってきたから準優勝することができたと思います。3年生に恩返しと感謝を込めて優勝させてあげたかったけど、優勝させてあげなくてすごく悔しかったです。最後、3年生が涙を流しているところがすごく心に残ったし、やっぱり勝たせてあげたいと思いました。でも、この団の仲間ですごく楽しかったからこんな楽しい運動会になったんだと思います。私も、今の3年生のようになれるよう頑張ります。

「順位以上に大切なこと」

運動会当日は、本当は少し行きたくなかった。運動会は苦手で・・・でも今年の運動会は何か違った。昨年までは嫌々していたけど今年は思いっきり楽しめた。最後は少し悔しい結



果だったけど、おそらくみんな楽しかったと思っている。無理につなげる絆じゃなくて、楽しく自然につながる絆を感じた。1位とか2位とかそんな順位だけじゃなくて、仲間や自分がどれだけ全力で頑張れて、どれだけ楽しく思ったのか、それが一番求めるものだった。

「記憶に残る最高の達成感」

運動会を終えてうれしかったことは友達からの声かけです。わたしがみんなの足を引っ張ったと思い落ち込んでいると、友達が、「大丈夫だよ、プラスに考えて頑張ろう」と言ってくれたおかげで、運動会が楽しかったという思い出になったので良い友達を持ったなと思いました。また、クラスや団で団結し、盛り上がって競技を楽しめ、最後の円陣では記憶に残る最高の達成感を味わえたので良かったです。楽しい運動会は仲間がいたからできたことだと思います。この運動会での協力を忘れずに、もっと成長していきたいです。

【文化祭編】

演劇や合唱、一つのものをみんなで創る苦しみと喜び、2年生の学びと3年生の想いを紹介します。

「あたたかい気持ちになりました」

3年生が中心となって作り上げた演劇はとても心に残りました。背景や大道具・小道具はとても細かいところまでつくってあって、遠目からでも迫力が伝わってきました。音響も効果的で、より演劇を楽しめました。そして、キャストの人たちも、せりふ一つ一つに思いがあって感動的でした。こういうふうに、たくさんの人たちが力を合わせてはじめて立派な演劇が作りあげられると思うと見ていてあたたかい気持ちになりました。

「あんな3年生になりたい」

3年生の演劇は、キャストのみなさんのすごさ、スタッフの皆さんの苦労・がんばりが伝わりました。みんなが協力して作り上げた演劇「ベニスの商人」は、本当に迫力のある最高のものになっていました。3年生が中心となってがんばる姿、本当に感動的でした。あんな3年生になりたいです。

「涙が溢れ出てきました」

合唱コンクールの練習は簡単なものではありませんでした。「走る川」はリズムや掛け合わせがとても難しく、なかなかハーモニーをつくることができませんでした。それでも私達のクラスは何とかハーモニーをつくりだそうと一生懸命練習しました。合唱コンクール当日は緊張しっぱなしでした。他のクラスの合唱はリハーサルより迫力があって一気に不安になりました。そこでみんなで「ゆっくり大きな声で歌おう！」と気合を入れ直せました。本番では今までで一番の声が出せました。結果発表・ドキドキした気持ちの中で他のクラスが呼ばれました。すごく悔しいのと、もうこれで最後なのかという悲しさが涙として溢れ出てきました。私は、悔しかったけどみんなで最後まで協力ができたことはすごく良かったと思いました。次の大きな行事は卒業式です。だからそれまで絶対やり残したことがないように悔いのないように中学校生活を過ごしたい。

「根上中学校でよかった」

そして2日目は合唱コンクールです。3年2組の合唱目標は「下剋上ーラストの歌にすべてをー」でした。運動会での悔しい気持ちを最後の歌にぶつけて歌うという意味が込められています。練習では声が出ない日があったり、話を聞いていないと先生に怒られた日があったり、大変な日がたくさんありました。しかし合唱コンクールが近づいてくるとみんなの気持ちが一つになっていきました。当日の朝練ではみんなの声が出ていてすでに仕上がっていました。本番では歌い切りましたが、私はあまり自信がなかったけど、「最優秀賞3年2組」と言われた瞬間何が起こったかわからないくらいとってもうれしかったです。そして、最後のエンディングでは、みんなで肩を組み合い文化祭のテーマソングである「ビリーブ」を歌いました。私は、その時、「根上中学校でよかったな」と心から思いました。みんなで作り上げた文化祭、私にとっては最高の思い出になりました。